

## 平成29年 **6**月の大阪森林便り



### 今月の木の話

#### 節のない柱は、木の成長の仕方を利用して作られる

- ・木が帽子を重ねるようにして成長していくために、四方無節の柱とか、三方無節の柱だとか、節のない柱が人工的に作られることにもなります。
- ・節とは、材の中に現れた枝のことで、元々山に育っている木には枝があるのですから、枝のある箇所を切ると、そこに節が現れるのは当然のことです。
- ・自然に落枝したり、人工的に枝を切り落としたりすると、残された基の部分は周りから盛り上がってくる力によって巻き込まれ、ついには枝跡が完全に覆いかぶさされて、それ以後成長する木は無節となります。
- ・桧は杉に比べて自然に落枝する傾向が弱いので、人の手をかけて、樹の芯の部分に生じた小枝を除去する“枝打ち”を行うこととなります。

(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



#### 北米産丸太 価格据え置き 対日、5月積み

- ・北米産丸太の対日輸出価格が、3か月連続の据え置きで決着。
- ・現地の木材会社は日本の商社に値上げを要請しましたが、競合する欧州産製材品が価格を据え置き、米産も横ばいとどまりました。

(2017年5月18日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



#### 南洋材5%値上げへ マレーシア 丸太伐採 増税の方針

#### 合板、国産材シフト加速も

- ・住宅の内装材や合板に使う南洋材の対日輸出価格が上昇する見通し。
- ・輸出業者は、6月積み合板で従来比5%前後の値上げを提示し始めました。
- ・マレーシア産丸太の輸入量は、環境規制の強化で1990年代後半から年々減少傾向。2016年の同国産丸太の輸入量は前年に比べ8.2%減りました。同国産合板の輸入量も2016年は前年比10.3%減少。
- ・2016年国産合板の生産量は約306万m<sup>3</sup>。国内シェアは年々上昇傾向にあり、2016年は52%と、1995年以来21年ぶりに輸入合板を超えました。

(2017年5月19日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



木質バイオマス

燃料は地元材

地産地消

官民で

隣接工場の材料活用

排熱、福祉施設に供給

・二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を減らせるバイオマス発電の導入機運は高まっていますが、燃料を輸入材に頼るケースが多くあります。バイオマス発電は出力1万キロワット以上の設備が増加傾向ですが、まとまった量の燃料を輸入に頼るケースが多いのです。

※木質バイオマス発電：再生可能エネルギーの一つで、木材を砕いたチップや木くずを固めたペレットなどを燃やし発電。国は2030年度までに木材を含むバイオマス発電の電力を全体の約4%にする目標。電力は再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度の対象。

近畿に国産材活用の余地

奈良県など高い森林率

林業従事者の確保、カギ

ギ

- ・2015年の木材自給率は約33%と5年連続で上昇。
- ・木質バイオマス発電の原料のうち、輸入が半分以上を占めます。
- ・2012年度の総土地面積に占める森林率は奈良、和歌山両県が77%、京都府も74%と全国平均（67%）を上回ります。兵庫県も67%。
- ・全国の林業従事者は、2015年時点で48,000人と1980年の3分の1に減りました。近畿は4,500人。

（2017年5月26日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

